

横浜薬科大学 後援会だより

Vol.16

会長挨拶

後援会会員の皆様におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

先日はご多忙の中、後援会定期総会へのご参加、誠にありがとうございました。日頃より後援会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

後援会は大学と保護者の皆様のパイプ役となり、勉強の大変な学生に寄り添えるよう、皆様からお預かりした後援会費について、現在学生に向けて行なっている事業が適切であるか？また限られた予算をどう割り振るか？など、意見を出し合いながら事業を進めております。今年度は繰越金が前年度より少なく、収入減となったため全体的に少しずつ経費支出を絞らざるを得ない状況ではありますが、毎年発行していた後援会の会報を、オンラインのみにしペーパーレス化することで支出減に繋げてみました。

他にもいいアイデアやご意見、ご質問等ありましたら是非ご連絡ください。後援会宛ての電子メール(s.o.pt@hamayaku.ac.jp)でも結構ですし、大学に連絡くださっても構いません。是非後援会までお願い致します。

そして学生の皆さま、自分がどれだけ素晴らしいかを知ってください。自分を信じてください。そのままで十分過ぎるくらいです。私自身人生ミスだらけ、回り道もかなりありましたが、無駄なことは一つも無く、ここまで来るのに全部必要な経験でした。そしてまだまだ自分のアイデンティティの構築に試行錯誤の日々。まだまだ伸び代があると信じこの先も迷走が続く事でしょう。

引き続きの皆様のご理解ご協力、どうぞ宜しくお願いします。

横浜薬科大学後援会 会長

三橋 麻衣

令和7年度 定期総会

令和7年6月1日(日)、対面及びオンラインを併用して、定期総会を開催いたしました。
46名の会員の方が来学して出席されました。

総会では、会長及び大学からの挨拶のあと、「令和6年度事業報告」、「令和6年度決算報告」、「令和7年度事業計画案」、「令和7年度予算案」及び「令和7年度の新役員選出」の各議案について審議され、すべて承認されました。

総会に引き続き、加藤学部長、川嶋学生部長、磯村教務部長、佐藤厚生部長、速水薬科学副科長及び三浦国試対策委員長から、会員の皆様に対して「大学の概要」「学生生活」「6年制・4年制学科の教育」「就職活動」及び「国試対策」等についての講話を頂きました。

後援会は、会員の皆様との繋がりを大切に、学生の様々な活動をサポートして参ります。今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 後援会役員紹介（敬称略）

会 長	三橋 麻衣	副会長	篠原 康	副会長	高野 紀子
会 計	北村 純一	会 計	山口いずみ	幹 事	高橋千栄子
幹 事	羽淵 裕真	幹 事	高橋佐和士	幹 事	石渡 達也
幹 事	天羽久美子	幹 事	奥津 俊彦	幹 事	白鳥 信子
監 査	鰐淵 清史	監 査	中野 智彦		

令和6年度 事業報告

年	月	事業内容
令和6年	4月	① 入学式：生花、入学祝い品贈呈 ② 部活動・同好会活動支援 ③ 第1回役員会：令和5年度事業報告、会計報告、令和6年度事業計画案・予算案等 ④ フレッシュマンセミナー支援：食事費用補助
	5月	定期総会開催：対面総会
	6月	① 学内ソフトボール大会支援：賞品寄贈 ② 同窓会支援：運営費補助 ③ 研究室・指導担任支援：学生との懇談費用等補助
	7月	① 白衣贈呈：4年制の3年生、大学院1年生 ② 傘寄贈
	8月	① 「後援会だより」作成・発送 ② 部活動・同好会活動支援 ③ 学位記授与式：卒業記念品、生花寄贈 ④ 国試対策準備支援：軽食費用補助
	10月	① 学生用ネーム札贈呈：実習用名札 ② 学園祭支援：出店費用等補助 ③ 第2回役員会：上半期事業実績審議等 ④ 早期体験学習支援：交通費補助
	12月	国試対策準備支援：軽食費用補助
令和7年	1月	CBT受験支援：弁当、飲み物配布
	2月	① 白衣贈呈：6年制の4年生（実務実習用） ② 国試対策準備支援：軽食費用補助 ③ 第3回役員会：下半期事業実績審議等
	3月	① ハマヤクコンテスト：入賞賞品贈呈 ② 学位記授与式：卒業記念品、生花寄贈 ③ 卒業生支援：記念品寄贈補助、卒業アルバム作成補助、卒業パーティー補助 ④ 部活動・同好会活動支援
通 年		① 新型コロナワクチン接種費用補助 ② インフルエンザ予防接種費用補助 ③ TOEIC受験費用補助 ④ 図書寄贈 ⑤ 短期留学支援：保険代金補助 ⑥ 学会参加費補助 ⑦ 登録販売者試験受験費用補助 ⑧ B型肝炎ワクチン接種費用補助

令和7年度 事業計画

年	月	事業内容
令和7年	4月	① 入学式：生花、入学祝い品贈呈 ② 部活動・同好会活動支援 ③ 第1回役員会：令和6年度事業報告、会計報告、令和7年度事業計画案・予算案等 ④ フレッシュマンセミナー支援：食事費用補助
	6月	① 定期総会開催 ② 同窓会支援：運営費補助 ③ 学内ソフトボール大会支援：賞品寄贈 ④ 傘寄贈 ⑤ 研究室・指導担任支援：学生との懇談費用等補助
	7月	白衣贈呈：4年制の3年生、大学院1年生
	8月	① 「後援会だより」作成・大学HPへ掲載 ② 部活動・同好会活動支援 ③ 学位記授与式：卒業記念品、生花寄贈 ④ 国試対策準備支援：軽食費用補助
	10月	① 学生用ネーム札贈呈：新入生（実習用名札） ② 学園祭支援：出店費用等補助 ③ 第2回役員会：上半期事業実績審議等
	11月	早期体験学習支援：交通費補助
	12月	国試対策準備支援：軽食費用補助
令和8年	1月	CBT受験支援：弁当、飲み物配布
	2月	① 白衣贈呈：6年制の4年生、実務実習用 ② 国試対策準備支援：軽食費用補助 ③ 第3回役員会：下半期事業実績審議等
	3月	① ハマヤクコンテスト：入賞賞品贈呈 ② 学位記授与式：卒業記念品、生花寄贈 ③ 卒業生支援：記念品寄贈補助、卒業アルバム作成補助、卒業パーティー補助 ④ 部活動・同好会活動支援
通 年		① 新型コロナワクチン接種費用補助 ② インフルエンザ予防接種費用補助 ③ TOEIC受験費用補助 ④ 図書寄贈 ⑤ 短期留学支援：保険代金補助 ⑥ 学会参加費補助 ⑦ 登録販売者試験受験費用補助 ⑧ B型肝炎ワクチン接種費用補助

横浜薬科大学後援会の皆様には、日頃より学生教育への多岐にわたる御支援を賜りまして誠にありがとうございます。

本学では、人の苦しみを理解し、共感し、慈しむ気持ち、つまり「惻隱の心」を持って社会で活躍できる医療人を育てることを理念とした教育活動を実践しております。この考え方に基き、地域における様々な活動への協力も行っており、社会とのつながりを通した医療人として必要な心の教育を進めています。昨年9月には、大学近郊にある多世代交流センターにて開催された健康フェアに、多数の学生が地域の方々の骨年齢測定などの健康チェックの支援者として参加し、現在の薬剤師に求められている健康増進支援活動を現場にて深く学ぶ機会を持つことができました。参加された住民の方々から感謝の御言葉をいただき、学生の皆さんにとっては人の健康維持に寄与できる喜びや大切さを認識する貴重な経験になったものと思います。

昨年10月、本学の学園祭にあわせて、神奈川県薬剤師会主催による学術フォーラムが本学を会場に開催されました。薬剤師が関わる医療の課題をテーマに、研究成果の発表や活発な議論が行われる中で、学生も参加者として貴重な学びの機会を得ることができました。さらに学生自身の研究成果を薬剤師の皆様に披露する場も設けられ、医療現場で活躍しているプロの視点からのアドバイスが得られる貴重な機会となりました。また地域住民の皆様も来場され、学生たちと直接交流する和やかな場面も見られました。加えて学生はフォーラムの運営にも携わり、責任感や実践力を育む良い機会となりました。今回の取り組みは、学生にとって大変有意義かつ効果的な教育の場であり、今後の学びと成長に確かな礎を築く経験となりました。

本学は、薬学の知識を必要とする様々な領域・分野においてグローバルに活躍できる人材を社会に輩出すべく、6年制3学科、4年制1学科、そして両学科体制に続く大学院を設置し、薬学総合大学として研究・教育体制の充実を図ってまいりました。さらに、広い視野を持って薬学を修得できるよう、海外の薬学事情を学ぶ機会の提供を目的とした、アメリカやイギリス、アフリカ、台湾、韓国などの海外の大学との連携協力覚書(MOU)の提携も行っております。昨年も多数の学生の皆さんがこれらのプログラムに参加し、学習の幅を広げてきました。このような体制下での教育の実践において、後援会の皆様より、環境の整備・充実のみならず学習意欲の向上につながる様々な御心遣い、御支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」、すなわち持って生まれた個性を伸ばしつつ、常に自らの人間性も高めていこうとする人材の育成という目的達成のために、教職員が一丸となって尽力し、全ての学生が、社会で活躍し、充実した人生を送ることができるよう、引き続き充実した教育の実践に努めていく所存です。後援会の皆様におかれましては、今後とも御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

学部長 加藤 真介

後援会の皆さまには、日頃より本学学生の様々な活動にご理解、ご支援を賜わり、誠にありがとうございます。今年度より学生部長を拝命いたしました川嶋芳枝と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

6月1日には多くの保護者の皆様にご参加いただき、後援会総会が開催されました。その場におきましては、皆様方より貴重なご意見を頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。本後援会総会において、三橋会長が選出され、新しい体制での学生へのサポート活動が始まっております。

横浜薬科大学は、2006年に6年一貫の薬学教育を実施する薬科大学として設立され、2015年に4年制薬科学科が、2019年に大学院薬学研究科が設置され、今年度20回目の入学生を迎えました。多くの学生が日々勉学に励み、課外活動や行事を楽しんでおります。

学生部では、学生の皆さんが充実した大学生活を送れるよう、奨学金関連、課外活動、スクールバスや神奈中バスの調整をはじめとした様々な学生生活全般の支援を行っています。健康面では、医師、看護師、臨床心理士・公認心理師の資格をもつカウンセラーが常駐し、メンタルケアを含めた健康サポートを行っています。また学生相談員・ハラスメント相談員を配置しており、学生の多様な相談に対応しています。さらに、指導担任制度を取っており、担任教員は担当する学生と定期的に面談を行って学生の学業や心身の健康の状態を把握し、問題が生じた場合は保護者と共有し、学生部と一緒に解決をはかっています。授業出席状況、学業成績に関しましては、保護者の皆さまが把握できる“アンシンサイト”を運用しておりますので、ぜひご活用ください。ご使用に関して不明な点がございましたら、大学にお問い合わせください。

この春入学された新1年生には、入学式直後から、仲間づくりを目的としたフレッシュマンセミナーを本学の軽井沢セミナーハウスにて実施いたしました。2泊3日の日程で行われたこのセミナーでは、新入生はカーリングやゲーム等を通して先輩ティーチングアシスタントや同級生と交流を深めました。セミナー後には、多くの友人ができたという嬉しい報告が学生から届いております。また4月半ばには担任教員との交流会を実施し、担任との交流、また同じ教員を担任とする学生同士の交流が進みました。

以上のように学生部では、学生の皆さん全てが健やかで充実した大学生活を送り、自らの夢に向かって歩いていけるようにサポートを実施しております。また、これからもより良い支援活動を模索し、実施していきたいと考えています。今後とも、保護者の皆様にはご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

学生部長 川嶋 芳枝

教務部長の磯村茂樹です。どうぞよろしくお願いいたします。

後援会の皆様におかれましては、日頃より本学の教育にご理解、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。昨年は、改訂された薬学モデル・コア・カリキュラムの適用により、本学においても新1年生から新しいカリキュラムにて講義を実施しました。今年はその2年目ということで、第2学年まで新カリキュラムでの講義の進行となります。この改訂によって、2040年以降の社会を想定した医学・歯学・薬学において共通して求められる資質や能力を培うことが求められています。従って、基本となる概念を中心に、解決法を自ら考えられるよう、新しいカリキュラムでは、全ての講義科目において学生参加型の授業や演習を取り入れ学修成果の向上を目指しております。これに伴い、上級学年においても、演習やグループワークの該当時間を増やすなど学修成果の向上に向けて改変をしております。

次に、現在の教育状況につきましてご説明いたします。

・漢方薬学科、臨床薬学科、健康薬学科（6年制）

6年生は、6月7日に卒業研究発表が終了し、6月30日からは、本学教員による国家試験対策の中核となる「薬学総合演習」が始まりました。本演習の振り返りとなる「理解度確認試験」や「国家試験全国統一模擬試験」を実施すると同時に、形成的評価の項目を設け研究室主任等との面談とディスカッションを通じて学修目標達成に向けてPDCAサイクルを回していきます。

5年生は、2月より薬局および病院の実務実習がそれぞれ11週にわたり実施されています。それ以外の期間には、研究室主導のもと卒業研究を行うとともに、プレ薬学総合演習という自由科目を設定し、国家試験への向き合い方のSGDや弱点克服の演習など数多くのプログラムを行っています。

4年生は、共用試験対策として知識、技能が到達点に達するように領域ごとの薬学演習および薬剤学実習等を行います。

3年生は前期の中間試験が終わり定期試験に向けて、医療薬学分野の学修および実習をしています。

1,2年生は、新カリキュラムに従い、基礎領域や専門領域の「概念化」に向けてそれぞれの講義内での演習や自宅学習での課題に取り組んでいます。

・薬科学科（4年制）

1,2年生は薬学科と同じく新カリキュラムに移行し、考える力を養うよう基礎教育を実施しています。少人数での講義となりますので、きめ細やかな学生指導を心掛けています。

3,4年生は、講義と並行して2年間にわたる卒業研究を実施しています。卒業研究は問題解決能力の醸成の場であるので、指導担当教員と研究内容の一つ一つをディスカッションしながら行います。

このように、我々教職員は、学士（薬学）、学士（薬科学）を志す学生さんに向けて最も効果的であると考えられる教育を提供できるよう尽力してまいります。引き続き保護者の皆さまのお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

教務部長 磯村 茂樹

厚生部長を担当しております医薬品化学研究室の佐藤です。日頃より本学の活動にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。厚生部ではキャリアセンターの活動を中心に、浜薬学生の就職活動をサポートしています。

最近の採用動向としては、新型コロナウイルス感染症の拡大後に導入されたweb面接が採用初期に定着しました。選考が進むと対面での面接が行われるのが一般的です。企業の採用意欲もますます高く、大学への求人件数や求人数は増加しています。また、インターンシップに参加した学生情報をその後の採用活動に使用しても構わない、というルール変更があったことで企業のインターンシップ開催が盛んです。各社概ね5年生（薬科学科では3年生）の夏ごろから開催しています。中には早期の採用活動ではないか、と疑われるものもありますが、いずれにせよ学生の就職活動は卒業の1年以上前からスタートするのが現状です。厚生部としては、ある程度早めに準備してもらえるよう、支援プログラムの実施や説明会等の情報を学生にメールマガジンで伝え、インターンシップ参加に関する相談にも対応しています。本来インターンシップの目的としては、学生が業界や職種を理解するためであったはずですが、これが早期選考につながりかねないとなると学生はそれなりに注意して参加する必要があるため、負担が増加します。その結果学生のキャリアセンターへの相談件数も増加し、このところほぼ一年を通して相談に対応しています。

このような状況下、本学の学生はしっかり就活に取りくんでくれました。今春3月に卒業した6年制学科14期生の国家試験合格者および4年制薬科学科7期生の就職率は、共に100%を実現しています。さらに薬科学科大学院博士前期課程の第5期、博士後期課程第2期および薬学科博士課程第3期修了生でも、希望者は全員就職しております。就職支援プログラムでは、オンラインと対面を取り混ぜて実施しており、目的や状況に応じて使い分けています。今年度はこれに加えて、学生へのアンケート結果や企業からの要望を勘案し小規模な学内での対面会社紹介を定期的で開催します。支援プログラムは常に現状を分析し、改善・最適化する必要があると考えています。

大学は、学生が自主的に学んでいく場であると同時に、自分自身の人生についてよく考え、夢を抱き飛躍するための準備ステージでもあります。入学してすぐは目の前の勉強や部活動などに追われ、将来のキャリアのことまで考えが至らないかもしれません。しかし、卒業まではあっという間です。早めに就職を意識する必要があります。余裕を持って準備し、プランを定めたら着実に行動する事が就職活動のポイントであり、計画的な就活は学業へも好影響を与える点を学生に発信しています。

横浜薬科大学の教職員は、学生が卒業後にやりがいを持って仕事に励み社会に貢献する人材となれるよう、勉学だけでなく就職活動においても全員でサポートに努めて参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

厚生部長 佐藤 康夫

国家試験対策委員長挨拶

国家試験対策委員長を拝命しております三浦伸彦と申します。貴会には日頃より本学の教育にご理解、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

まず2025年2月に行われた第110回薬剤師国家試験の結果についてご報告いたします。本学の新卒者の合格率は87.8%、合格者数は136名でした。また既卒生を含めた合格者数は257名となり、横浜薬科大学出身の薬剤師が今年も数多く輩出されました。

次に例年お伝えさせていただいておりますが、薬剤師国家試験の合格ラインについて、保護者の皆様にはあらためてご理解いただきたく説明いたします。事前に「〇〇%」以上を正解すれば合格という明確な基準は公表されておらず、合格点は、相対基準により設定されており毎年変動します。つまり、厚生労働省が得点状況を見ながら、その年の合格ラインを決めています。そのため、現在の薬剤師国家試験は上位何名までを合格とするといった、実質、選抜試験になってきていると考えられます。このことは、国家試験に合格するためには、1点でも多く得点する必要があることを示しています。

このため本学では、十分に時間をかけた取り組みを行うために、早い時期から国家試験対策を実施しております。国家試験では一部の受験者しか解けないような難問が出題されることはほとんどありません。基礎的な知識をしっかりと蓄えていけば合格基準に到達できます。そのためには、時間をかけてコツコツ勉強し、国家試験の過去問題を繰り返し解くことで理解を深めていくという過程が必須です。したがって、国家試験のための勉強の開始時期は6年生の4月ではなく、遅くとも5年生からスタートする必要があります。本学では、国家試験の過去問題を最低5年分は6年生になる前までに解き終わるように指導しておりますが、これを支援するプログラムとして、本年度より『プレ薬学総合演習』という科目を設定いたしました。

6年次に本格化する国家試験対策の勉強はロングランです。そこで、勉強に対する意欲を維持できるよう、学力の伸びと弱点を把握させる目的で、定期的に行う確認試験の結果をもとに、教員の助言を受けながら、次の目標を具体的に自ら立てる自己研鑽力も評価の対象とする仕組みを、本年度より導入いたしました。

また勉強のための環境は重要ですので、学生同士が互いの学習状況を把握でき、足りないところを学生間でカバーし合いながら勉強できる場所・雰囲気を作っております。さらに教員による6年間の知識をまとめる講義（薬学総合演習といいます）が実施されますが、その日の担当教員全員が講義後に再び講義室に集まり学生からの質問に対応できる体制をとっております。加えて、次の国家試験に出題されそうな問題を教員が予想し、それについて解説する「スポット講義」を実施するなど、教員が試験の間際まで寄り添ってサポートしております。なお、夏期及び冬期に実施される予備校講習会では、勉強の一助として講義終了後に軽食と飲み物を提供しておりますが、これらの購入については貴会よりご支援いただいております。あらためて厚く御礼申し上げます。

国家試験のみならず11月に行われる「薬学総合演習試験」の対策で、6年生には大きな精神的負担がかかります。試験を受けるのは学生本人ですが、ご家族の支えがとても重要です。ご家族の皆様にはご子息・ご息女の精神的な支えとなっただき、薬学総合演習試験及び薬剤師国家試験合格に向けたご協力をお願い申し上げます。

国試対策委員長 三浦 伸彦

●大学のこの1年

浜薬祭 2024年10月

今年度は浜薬祭実行委員会が復活。大学同窓会主催の相談caféやテレビ神奈川によるステージイベント等もあり、学内・学外合わせて30団体が出展(出店)し、2,400名を超えるご来場がありました。日没後にはライトアップの中、後夜祭が行われ、盛況のうちに終了しました。



白衣授与式 2025年2月

実務実習に臨む新5年生を対象に、白衣授与式が挙行されました。白衣授与式は、真新しい白衣に袖を通し、薬剤師としての専門職意識の向上、医療人としての倫理の自覚と患者さんに対して持つべき優しさを再認識し、薬剤師を目指す者としての心構えを新たにするための式典です。実務実習を通し、更なる飛躍に期待しています。



ハマヤクコンテスト 2025年3月



開学以来、「こころの教育」の一環として実施している読書感想文コンテストです。今回は40点の応募作品があり、最優秀賞1名のほか、優秀賞、奨励賞など16名の受賞が決まりました。入賞した学生には後援会からも副賞が贈られました。紀伊國屋書店の西武東戸塚S.C.店では二週間、図書館には常設で受賞対象書籍のコーナーを設け、感想文受賞作品集やオリジナルPOPとともに紹介されています。



学位記授与式 2025年3月

令和6年度学位記授与式を挙行了しました。学部卒業生、大学院薬学研究科修了生及び保護者の方々にも出席いただいていたの式となりました。卒業生並びに修了生の皆様、卒業おめでとうございます。教職員一同、皆様のご活躍を心より祈念しております。



入学式 2025年4月

令和7年度入学式を挙行了しました。あいにくの空模様ではありましたが、桜咲く中、本年度の入学式もご来賓や保護者の方々も参加しての開催となりました。新入生の皆様が本学へ入学されたことを教職員一同心よりお祝い申し上げます。



フレッシュマンセミナー 2025年4月

新入生を対象としたフレッシュマンセミナーを軽井沢にある学園グループのセミナーハウスにおいて、2泊3日のスケジュールで行いました。様々なイベントを通じて、新入生同志はもちろん、同行の教職員、上級生とも交流し、つながりや信頼を深め、これからの学生生活を有意義に送るためのきっかけ作りにもしてもらうことを目的としています。出発時には緊張していた面々も、最終日には和気あいあい、笑顔があふれていました。



ジャンプアッププログラム 2025年4月

新入生が、大学での学びの特徴をつかみ大学生活に早く慣れることを目的としたプログラムを、入学後の約二週間行っています。座学の他にも、学内施設（講義室、図書館、食堂、自習室など）を上級生の案内で巡る学内ツアーや、社会で活躍している卒業生に卒業後の仕事や学生時代の過ごし方などの体験談を聞く懇談会などに参加し、徐々に大学に馴染んでいく様子が見られました。



卒業研究発表会 2025年6月

6年制学科の6年生による卒業研究発表会が開催されました。卒業研究は研究プロセスを通して身につけた知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培うことを目的としており、研究室配属となった4年生から取り組んできた研究成果を披露しました。

